

### グループ

## 04年度末までにEU・R・HS 指令対象の6化学物質を全廃 無鉛ハンダ切替えも

日立グループは1004年度末までにEU(欧州連合)に加盟する十五カ国が発効した電気・電子機器に含まれる特定有害物質の使用制限指令(RoHS指令)対象の約七十種類の有害物質を全廃する。また、無鉛ハンダへの切り替えについても今年度末までに国内生産の1004年度末までに全品で実施する。日立は今年度末には全品について

調査を終了する予定。調査結果の最終報告は2週にわたって、代替技術の評価検討を待たせ、製品への使用を開始していく。鉛フリー化対策については部品実装で使用する接続用ハンダに代わって、銅-銀-銅系にハンダの溶融温度を低くするための約70%のインジウムを添加したものを使用する。すでにハンダは、の信頼性を

作業性確保を確認、今月から随時使用していく。こうした環境保全に絡む部材の調達については、日立は、グループ調達システムを運用して、グループで活用していく。また、同社は鉛フリーハンダ接合技術の世界的普及を目的に産業官連携でIEMの国際プロジェクトのOIHを推進。今年三月には日欧韓での国際協力体制を構築した。

### 定質 指物 U害 E有

## 日立、2005年春全廃へ

### 調達先にも情報開示要請

日立製作所は一日、電気・電子機器など、電気・電子機器を対象に鉛や水銀などの使用を2005年三月末までに全廃すると発表した。06年七月に欧州連合(EU)で特定有害物質の使用を禁じる環境規制「RoHS指令」が施行されることに対応する。併せて05年三月末までに鉛はんと

よび臭素系難燃剤二種類の合計六物質を全廃する。グループの全品について、今年度中に特定有害物質の含有状況の調査を完了し、代替物質への切り替えなど対応を順次進める方針。調達先にも情報開示を求め、鉛はんだは、代替とし

てインジウムを7%添加したスズ-銀-銅系はんだの実用化にメドが立ったため十二月から使用を開始。国内では04年三月末までに、調達部品を含め世界の全工場生産する製品は05年三月末までに無鉛はんだに切り替える。こうした環境対応は開発や設備の更新など投資がかかると、生産コストが上昇する恐れがある。日立は設計変更や製造方法の見直しなどでコスト増を吸収したい考えだ。